29日　月曜

ハバクク

2:12 ああ。血で町を建て、不正で都を築き
上げる者。
2:13 これは、万軍の主によるのではないか。
国々の民は、ただ火で焼かれるために労し、
諸国の民は、むなしく疲れ果てる。
2:14 まことに、水が海をおおうように、地は、
主の栄光を知ることで満たされる。
2:15 ああ。自分の友に飲ませ、毒を混ぜて酔
わせ、その裸を見ようとする者。
2:16 あなたは栄光よりも恥で満ち足りている。
あなたも飲んで、陽の皮を見せよ。主の右の
手の杯は、あなたの上に巡って来て、恥があ
なたの栄光をおおう。
2:17 レバノンへの暴虐があなたをおおい、獣
への残虐があなたを脅かす。あなたが人の血
を流し、国や町や、そのすべての住民に暴力
をふるったためだ。
2:18 彫刻師の刻んだ彫像や鋳像、偽りを教
える者が、何の役に立とう。物言わぬ偽りの
神々を造って、これを造った者が、それにた
よったところで、何の役に立とう。
2:19 ああ。木に向かって目をさませと言い
黙っている石に向かって起きろと言う者よ。
それは像だ。それは金や銀をかぶせたもの。
その中には何の息もない。
2:20 しかし主は、その聖なる宮におられる。
全地よ。その御前に静まれ。

敵であるカルデア人の不義について告発が続きます。私たちは自分自身も同じ罪があることを認めつつも、主の十字架によって赦されていることを感謝し、これを警告として、きよい者となってゆく必要があります。

１４節までは自分の目的のために他者を苦しめる罪が記されています。何かを築き上げようとしたら

Bible Reference 聖書の記述

それは「万軍の主による」のであるということを知らなければなりません。人を押さえつけたり悲しませたりすることは主の方法ではありません。

１７節までは策略によって目的を成そうとする罪です。そのような者は結局その身に報いがもたらされるとあります。

１９節までは偶像に頼る罪が記されています。クリスチャンにはそのような人はいないでしょう。しかし、本当に自分は神に頼っているのか、それとも別のものを頼ってしまっていないか、それを考えてみることも必要です。

①神のみこころは？（信仰のあり方、希望の約束、愛の満たしなど）

②どんな思いになりましたか？（感情や願いなど）

③生き方にどう適用しますか？（あなたのどの部分を主は扱おうとしておられますか）

④この世にあって何を実践しますか？